

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2019 年 12 月号掲載

馬耳蘭風 —オランダ奮闘記—

佐々紫苑

Shion Sassa



愛馬QUANDOと私、自分でいうのもなんですが、この頃とてもいい感じです。試合もクラスアップし、緊張の中にも試合を楽しむ余裕が少し出てきました、なんて思っていたら「おごれる者は久しからず」とは、はい、私のことでした。

先日の国際試合でのこと。初日、中日と減点ゼロで走行し、いよいよ最終日。前日までの反省点を踏まえつつ、待機馬場でのQUANDOの状態は、若干テンションが高めかなと感じつつも仕上げは



明松寺馬事公苑所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。大学では4年連続で学業優秀賞を受賞。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

上々でした。いよいよ出番、入場し審判に敬礼。第1障害に向かいます。冬のインドア大会の難しさは、その会場の狭さです。所狭しと並べられた障害物は間隔も短く、コース取りに頭を悩ませます。このとき1番のすぐ隣には7番が同じアングルで並んでいました。1番に向けて駆歩をつくり、回転したその時QUANDOの歩様にイレギュラーを感じ、立て直すためとさにアプローチのアングルを少し変え、彼は「1番はあれですね」とばかりに7番を完全にロックオン。`違う違う!`と慌てて向け直しましたが間に合わず…。

しょんぼりする私にトレーナーは、「経験のある馬ほど、2日目以降は自分で考えて判断し始める。それが乗り手の思いとぴったり合えば素晴らしい走りができるけど、きょうはちょっとコミュニケーション不足だったね」と教えてくれました。1反抗を抱え、態勢を立て直してからのQUANDOの走りは、皮肉にも今回一番の飛びを披露。馬と乗り手が同じ目標に向かい、共に集中力を高めていく、まさに人馬一体の大切さを改めて教えてもらった試合でした。



クリスマスモードの会場にて、トナカイのような華やかな飛びです (本人提供)

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亜

Maria Takada



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亜

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

今回は馬術界のセレクトセールのお話をします。競走馬のせりと同じように馬術界にもオークションがあり、近年は馬術競技用の若馬が競走馬並みの価格で取引されています。

その代表的なオークションが「PSI (Performance Sales International)」と呼ばれるもので、毎年12月の1週目にドイツで行われます。

今年のPSIオークションで最高値がついたのは4歳のオス馬。落札価格はなんと130万円 (日本円にして約1億5000万円)！ オリンピックに出ることができる馬の最低年齢が8歳であることを考えると、馬術競技馬としてはとても若い馬です。年々こういったオークションに出てくる若馬のクオリティーが上がり、それに伴い値段も高騰しています。

オークション会場では、世界各国から招待された来客が馬場の周りをぐるっと囲み、お酒や食事を楽しみながらせを行います。オークションライダーと呼ばれるライダーが若馬に騎乗し、実際に馬の動きを見ながらのせりは見応え抜群。もしかしたらお酒の勢いを借りて落札!? なんてこともあるのかもしれませんが (笑)。



①今年のPSIオークションは40周年の記念イヤーでした②パーティー会場? いえ、オークション会場です (写真は全て本人提供)

